

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	会計学 2 (Accounting 2)					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)	
2020-23 年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL/資格対応 科目
	2037-3-23-118	専門科目	選択	2 単位	2 年次	後期		
2024-26 年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL/資格対応 科目
	2437-3-23-057	専門科目	選択	2 単位	2 年次	後期		

① 授業のねらい・概要						
<p>会計とは、特定組織の経済活動について貨幣額を用いて記録・計算し、その結果を報告するシステムである。本講義ではそのなかでも企業が株主や債権者等に向けて報告をすることを目的とする財務会計分野を扱う。</p> <p>会計学2では会計学1で学んだ基礎的知識をもとに、資金の管理と運用、国際活動、税金と配当、個別・連結財務諸表などを学ぶ。国税専門官試験の「会計学」にも対応する科目である。</p>						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
スライド資料等は Google Classroom を通じて配布する。スライド等は Notebook LM にもアップロードし、学生の復習にも役立つ予定である。スライドや各社 Web サイト、有価証券報告書等を閲覧するためにタブレットや PC の持ち込みを歓迎する。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
<p>「会計学1」と共に履修することを強く推奨する。</p> <p>「商業簿記1」「商業簿記2」と共に履修することで相互の理解が深まるので、これらの科目の履修を推奨する。</p>						
⑤ テキスト(教科書) ※授業で使用する。						
桜井久勝・須田一幸(2025)『財務会計・入門(第18版)』有斐閣(第19版が刊行された場合は第19版を使用する)						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
資格試験研究会(2023)『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 会計学』実務教育出版 荒堀政男・荒堀敬子(2025)『穴埋め・記述で学ぶ財務会計理論(第8版)』税務経理協会						
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
理論の解説に留まらず、事例等を多く紹介することで学生の理解が進むようにしたい。また、AI(Notebook LM)を活用することで、学生の復習などにも役立つようにしたい。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 資金の管理運用、国際活動、税金と配当と会計の関わりを理解し、説明できる。 (2) 個別財務諸表と連結財務諸表について、その内容を理解し、説明できる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	資金の管理運用、国際活動、税金と配当と会計の関わり	各論点と会計の関わりについて具体例によって説明できる。	各論点と会計の関わりについて自らの言葉で説明できる	各論点と会計との関わりについて、教科書等に基づいて説明できる	各論点と会計との関わりについて、教科書等に基づいてキーワードのみ説明できる	各論点と会計との関わりについて、教科書等に基づいてキーワードが説明できない
(2)	個別財務諸表と連結財務諸表の内容	財務諸表の内容について具体例によって説明できる。	財務諸表の内容を理解し、自らの言葉で説明できる	財務諸表の内容について、教科書等に基づいて説明できる	財務諸表に関するキーワードのみ、教科書等に基づいて説明できる。	財務諸表に関するキーワードも、教科書等に基づいて説明できない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	80%	20%					100%	
(1) 資金の管理運用、国際活動、税金と配当と会計の関わり	40%	10%					50%	
(2) 個別財務諸表と連結財務諸表の内容	40%	10%					50%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	小テストは実施後に解答解説を行う。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	ガイダンス	前期の内容について復習しておく。						120分
2	資金の管理と運用①（現金預金、有価証券）	現金預金の範囲と、有価証券の範囲や評価について調べておく。						120分
3	資金の管理と運用②（キャッシュ・フロー計算書、デリバティブ）	キャッシュ・フロー計算書の内容と意義、デリバティブの種類について調べておく。						120分
4	国際活動①（外貨建取引）	外貨建取引の処理方法について調べておく。						120分
5	国際活動②（在外子会社の財務諸表、国際会計基準）	在外支社・子会社の財務諸表の換算方法と、IFRSの意義について調べておく。						120分
6	税金と配当①（税金と剰余金の配当）	企業は納める税金の種類、剰余金の配当について調べておく。						120分
7	税金と配当②（配当制限、剰余金の処分）	債権者保護としての配当制限、積立金の設定などの剰余金の処分について調べておく。						120分
8	財務諸表の作成と公開①（財務諸表の体系、P/L、B/S）	財務諸表にはどんなものがあるのか、特に損益計算書と貸借対照表についてその仕組みと表示方法を調べておく。						120分
9	財務諸表の作成と公開②（その他の財務諸表）	P/L、B/S以外の財務諸表（キャッシュ・フロー計算書を含む）について、どのような種類あるのかを調べておく。						120分
10	企業集団の財務報告①（連結財務諸表とは）	企業集団としての財務諸表である連結財務諸表とは何かについて調べておく。						120分
11	企業集団の財務報告②（連結財務諸表の内容）	連結財務諸表の種類と内容について調べておく。						120分
12	企業集団の財務報告③（セグメント情報・合併）	セグメント情報とは何か、企業の合併とは何かについて調べておく。						120分
13	問題演習①	前期の範囲も含めて、教科書の内容を復習しておく。						120分
14	問題演習②	後期に学んだ範囲について教科書の内容を復習しておく。						120分
15	まとめ	特に後期に学んだ内容について、教科書だけでなく授業で触れた具体例なども復習しておく。						120分
⑫ アクティブラーニングについて								
知識定着・確認型ALを採用する。進度に応じて、国税専門官の「会計学」過去問などを小テストとして実施する。								

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
実務経験と授業科目との関連性	